

令和 6 年度県立長野図書館協議会（第 1 回）

これからの公共図書館を担う司書教育県立図書館・市町村図書館の役割を踏まえて

：話題提供

2024（令和 6）年 9 月 25 日 13:30-14:00

井上奈智（いのうえなち）上田市在住

上田女子短期大学専任講師（2023-）、松商短期大学非常勤講師（2024-）

JLA 著作権委員会（2010-）、元 NDL（2002-2022）

1. 司書

司書とは図書館で働く職員（図書館員）をいう。長野県の公共図書館に 900 人近くがいる。公務員常勤（司書専門職）、公務員常勤（行政職）、公務員非常勤（会計年度・臨時等）、自治体から委託、指定管理を受けて受託する会社の会社員常勤、会社員非常勤等さまざまな雇用形態がある。

2. 公共図書館

公共図書館＝公立図書館（自治体等が設置）＋私立図書館（法人等が設置）

長野県内 77 自治体のうち 56 で公立図書館を設置

長野県には 70 の公立図書館がある（県 1、市 30、町 18、村 21）複数で数える自治体もあるため図書館数と設置自治体数と一致しない。私立図書館は 1（ライブラリー82）

<その他の館種>

学校図書館：学校が設置する図書館（必置）

大学図書館：大学が設置する図書館（必置）

専門図書館：企業等が設置する図書館

国立図書館：国が設置する図書館、日本では NDL

3. 司書教育

(1)司書になる前	(2)司書になるとき	(3)司書になった後
司書資格取得（長野県の 司書資格保持率率 53%）	司書職専門採用 行政職採用 非常勤職員採用 会社員就職	実務 業務上の研修 自己研鑽 図書館以外への異動

(1) 司書（図書館員）になる前

司書資格は、毎年 1 万人近くが新たに取得する。司書資格を通じて、教育・情報技術・経営サービス、情報資源などを学ぶ。図書館員は数万人であるため職業に結びにくいである。

13 科目 24 単位以上の科目を履修すると取得できる。無試験であるため、司書資格取得者の

水準はさまざま。司書資格を保持していない方が司書になることも少なくない。

（司書資格の内容）

- ・基礎科目 生涯学習概論、図書館概論、図書館情報技術論、図書館制度・経営論
- ・図書館サービスに関する科目 図書館サービス概論、情報サービス論、児童サービス論、情報サービス演習
- ・図書館情報資源に関する科目 図書館情報資源概論、情報資源組織論、情報資源組織演習
- ・選択科目 図書館基礎特論、図書館サービス特論、図書館情報資源特論、図書・図書館史、図書館施設論、図書館総合演習、図書館実習

（2）司書（図書館員）になるとき

司書になるときの選抜はさまざまであり、いろんな背景、能力を持った方が司書として現場ではたらいっている。

- ・司書職専門採用試験 専門試験+面接など
- ・行政職採用 行政に関する知識（法律等）に関する試験+面接など
- ・非常勤職員採用 面接など
- ・会社員 適性試験+面接など

（3）司書になった後

図書館運営、収集整理、選書、サービス（一般、児童、障害者）、イベント企画はもちろん、官房（人事、予算、法）、システム、接遇、地域・コミュニティ、情報収集、他機関連携に関する技能も必要である。

実務の比率が最も大きい。カウンター、書架整理・排架、配送便・電話対応・補修、選書、レファレンス、読み聞かせ、展示・イベントなどがある。図書館で勤務する非専門職員もいる。

司書としての業務上の研修も豊富である。そのほか、公務員研修・社員研修など組織の構成員として研修もある。

自己研鑽も重要である。研究会、職能団体（JLA、館種ごとなど）、学会などに加入して学ぶ。司書として長期間勤務できる者もいればそうでない者もいる。図書館以外への異動も行なわれる。別の業務、研修、自己研鑽を通じて学ぶことも多い。

（直近の研修）

- ・県立長野（市町村立図書館向け） サービス計画、デジタル活用、学びのプログラム・学校連携、資料活用・レファレンス
- ・長野県図書館協会 著作権、読み聞かせ

- ・地域研修（北信） 資料保存
- ・各館
- ・文科省研修、NDL 研修など 館長向け、著作権法、主題（児童資料、アジア）、資料保存、デジタル化など
- ・JLA 中堅職員ステップアップ研修は、3 年目以上、7 年目以上を対象に開講。認定司書制度（2010 年度開始）では、10 年間の勤務経験がある司書資格を持つ図書館職員が自己研鑽、著作等を行なっている場合に申請して認定される。

また、JLA では、公立図書館の任務と目標（2004 年改訂）専門職に関する提言を行なっているが浸透しているとは言えない状況である。「1 司書（司書補）資格をもつ者を、公開公募の試験によって採用する。2 専門職員は、本人の希望または同意によるほかは、他職種へ異動されない。3 専門職員には、昇任の機会が適正に与えられる。」

4. これから

地域社会および図書館を含む文化機関の維持に課題が生じている。

（人口減）

全国 1.28 億人（2008 年）→1.25 億人（2024 年）

長野県 222 万人（2001 年）→200 万人を下回る（2024 年）→160 万人（2050 年）、→80 万人（2100 年）

（書店の減少）

全国で約 1 万店、20 年前の 6 割程度に。総坪数も 2010 年をピークに減少

自治体の 4 分の 1（長野県は半分）の自治体に書店がない。ただし長野県は自治体の総数が多いことに留意

（文化施設（図書館、博物館、美術館、水族館、動植物園等）の閉館、縮小）

長野県の博物館・美術館数は 341 館（全国 1 位）だが……

安曇野アートヒルズミュージアム閉館（2020 年）など

5. （都道府）県立図書館・市（区）町村図書館の役割とは

（公共図書館の役割（県立図書館+市町村図書館））

情報提供、資料保存、自己教育、読書施設、文化創造等

（（都道府）県立図書館の役割、市（区）町村図書館の役割）

○直接サービス

○県内の図書館、社会教育施設、学校等のネットワークの運営

- ・市町村立図書館の運営、サービスに対する相談
- ・研修
- ・共通サービス（電子資源の共同利用、紙資源の相互貸出、横断検索）

（県立長野の取り組み）

県立長野図書館ミッション・ビジョン「共知・共創の広場」

行動指針（Value）挑戦します：（Challenge チャレンジ）市町村や公共図書館等の取組を下支えし、展開するとともに、自ら先進的なサービスを実験・実践することを通じて、人々と共に成長し、変化に強い図書館づくりに挑戦しつづけます。

県立図書館概要より

- ・人材育成

市町村図書館、文化施設・教育機関、すべての人々と協働・成長

- ・「長野県 eLibrary 計画」によるデジタル化・ネットワーク化の推進

デジタル化（地域資源等）・読書バリアフリーの取り組み

信州ナレッジスクエア、デジとしょ信州、県立長野図書館電子書籍サービス

- ・市町村立図書館等運営への助言、提案

6. これからの公共図書館を担う司書教育県立図書館・市町村図書館の役割を踏まえて

NDL900 人+非常勤職員+委託事業者スタッフ

「永田町立」図書館→国立図書館 サービス（デジコレ、NDL サーチ、レファ協等）と調査研究（カレントアウェアネス CA）から評価の向上

県立長野 38 人（県全体 874 人）

- ① 県内図書館等向けサービスへの順次の配置（研修）

→運営、システム、連携

- ② 調査研究（これからの図書館の在り方検討協力者会議（2009 年、2012 年設置）

「都道府県立図書館は……図書館の新しいサービスやサービスの評価方法の調査・研究開発に努める……。」

調査研究のためには情報収集（→CA）

と専門性？必ずしもジョブローテーションと結びつかない。まずは 0.5 歩マニアックなことを。長野県の歴史に詳しい、官房に詳しい、図書館や MLA でない施設に詳しい、近隣県外の図書館に詳しい……など

ご清聴ありがとうございました！